

ストにとって森は
「息苦しさ」「期待と不安」

森が幾何学的

過去に受けた恐怖
と残り続ける傷跡

の模様を表した「面」になっている。
形や模様をしているが、これは彼に刻
傷を示している。

「絵画の多様な解釈展」

「難しい」
「教養がないと楽しめない」

絵画に興味や関心を持つ人が増え
ることを期待している。

「多様な絵画解釈展」

関わりづ
思ってい


人は興味がないものでも、言葉
一つで気になってしまうことが
ある。

絵画の描かれた背景や時代
ることによって、さっきま
は別物のように見方が変わ
しまう面白さがある。

多様な絵画解釈展

絵画には描かれた時代の背景や経緯がある。美術館では、作品の情報と作者についてまとめた解説の文章がある。この展示では絵画はもちろんだが、特に「解説文」に注目した展示である。解説文は学芸員によって書かれた文章と、クリエイターや一般の方などの視点で書かれた文章の二種類で展示する。多様な解釈によって絵画を楽しむ展示である。

※この文章は内容に含まれる。導入のために先に概要を述べている。



〔意 図〕

「多様な絵画解釈展」は、絵画にあまり興味のない人や美術展を縁遠いものと考えている人のために、美術に興味を持つきっかけを作ることを目的としている。

絵画は「難しい」「教養がないと楽しめない」という意見を聞くことがある。私も始めは関わりづらいものだと思っていた。しかし、絵画の描かれた背景や時代を知ることによって、先程までとは別物のように見方が変わってしまう面白さがある。人は興味のないものにも、言葉一つで心が動かされてしまうことがある。この展示では“知ることによって見る目が変わる”という主題で企画している。この展示を通して、絵画に興味や関心を持つ人が増えることを期待している。

「絵画の解釈」については、アメリア・アレナスの対話型鑑賞（参考文献を参照）を用いた展示会を比較対象にした。作品を作者の経歴や美術史的考察によって価値を決める鑑賞法ではなく、作品と作者の対話によって意味が追加される鑑賞法である。アメリアは鑑賞者の素直な反応を重視し、「自分の目で」見て楽しむ姿勢の必要性を提案した。具体的な一つの例は、文字による情報を極力少なくするという取り組みである。しかし、ここで私は文字情報による絵画の新しい見方を考えた。



〔内容〕

開催日程 2022年 7月15日～9月10日

開催場所 国立西洋美術館

展示内容 国立西洋美術館の作品 13点

1 一つの絵画に対して三つの解説文を展示する

三つの解説文には説明や物語などが書いてある。一つは学芸員によって書かれた解説文、他の二つは様々な職業の人が考えた解説文である。三つの解説文を展示することで、情報による絵画の捉え方、感じ方の変化を楽しんでもらう。

2 解説文は、キャッチコピーのように簡単に読める文章が上段に書いてある。その下に詳しい説明が書かれている

解説文が三つあるため、文章を読む量が増えてしまう。従って、簡単に読みたい人とじっくり読みたい人のどちらにも対応できるように、二種類制作する。

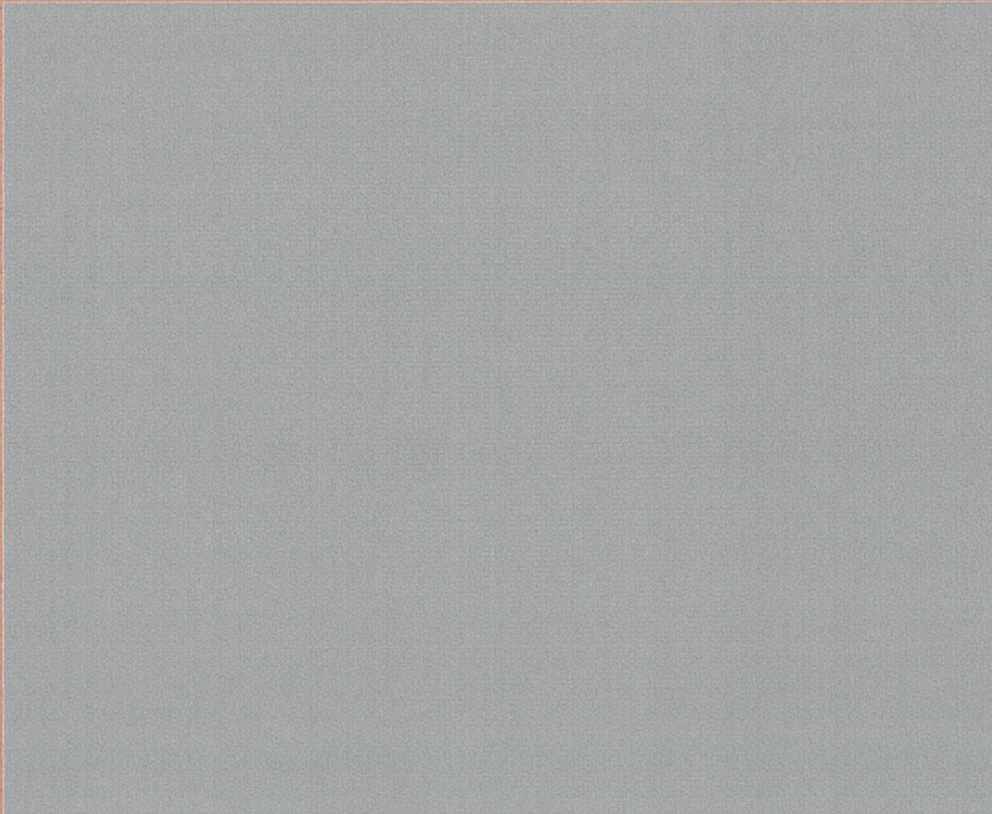
3 架空の解説や物語は、小説家・脚本家などのクリエイターや、会社員や学生などの一般の人にも書いてもらう

クリエイターに書いてもらうことで、違う方向からのものの見方を楽しむことが出来る。また、一般の人にも解説文を書いてもらうことで、鑑賞者に親近感を与えられ、「自分も考察してみる」という能動的な動きに繋がると考える。

〈展示の例〉

資料①

※資料は内容の文章に含まない。



マックス・エルンスト
《石化した森》
1927年
油彩 / カンヴァス 81×99.5cm

過去に受けた恐怖と残り続ける偏癖

エルンストの心の模様を表した作品になっている。森は不気味な形や模様をしているが、これは彼に刻まれた内面の傷を示している。上の月は呪いを解くという象徴である。しかし、彼の石化してしまった心は石化が解けたとしても深く付けられた偏はいつまでも残り続けるであろう。

原口孝 ○○○より

人間の進歩による脅威

手前にある森は人が森を変えてしまった様子を表している。森が幾何学的な模様になっているのは人に入れられてしまったからである。上にある円は改造されてしまった月を表している。時代が進み、人の技術が進歩していくことにより、自然のあるべき姿が真様なものに変えられてしまう邪を皮肉に描いている。

小野家○○○より

エルンストにとって森は「歓喜と息苦しさ」「期待と不安」

エルンストにとって、森は単に得休の知れない不安を喚起するだけのものではない。むしろ相容れることのない両義的な感情を同時に引き起こすものであった。「歓喜と息苦しさ」「自由と囚われ」「期待と不安」など、エルンストが自ら懸った森に関する文意は、こういった対照をなす言葉で綴られている。

国立西洋美術館のホームページより引用

※拡大したものが次のページに印刷されている。

《石化した森》を選んだ理由

私はこの作品をファンタジーの中に出てくるようで不思議だと思った。しかし、解説文を読むと私の想像したものとは違い読む前の作品とは全く雰囲気違って見えた。この作品は、二つの相反する感覚を表している。森の中では自由でありながら囚われている感覚を表している。私はこの感覚を他の人にも感じて欲しいと思い取り上げた。絵画を見た時の感じ方は人それぞれである。だが、その感じたことが言葉ひとつで変わって見えてしまう感覚を、ぜひ味わってもらいたい。

資料②

※ 資料は内容の文章に含まない。

過去に受けた恐怖と残り続ける傷跡

エルンストの心の模様を表した作品になっている。森は不気味な形や模様をしているが、これは彼に刻まれた内面の傷を示している。上の月は呪いを解くという象徴である。しかし、彼の石化してしまった心は石化が解けたとしても深く付けられた傷はいつまでも残り続けるであろう。

漫画家 ○○○より

人間の進歩による脅威

手前にある森は人が森を変えてしまった様子を表している。森が幾何学的な模様になっているのは人に手を入れられてしまったからである。上にある円は改変されてしまった月を表している。時代が進み、人の技術が進歩していくことにより、自然のあるべき姿が異様なものに変えられてしまう事を皮肉に描いている。

小説家○○○○より

エルンストにとって森は 「歓喜と息苦しさ」「期待と不安」

エルンストにとって、森は単に得体の知れない不安を喚起するだけのものではない。むしろ相容れることのない両義的な感情を同時に引き起こすものであった。「歓喜と息苦しさ」「自由と囚われ」「期待と不安」など、エルンストが自ら語った森に関する文章は、こういった対照をなす言葉で綴られている。

国立西洋美術館のホームページより引用

4 展示する絵画は幅が広いものにする

歴史画、肖像画、風俗画、風景画、静物画、抽象画
西洋の絵画を中心に展示する。

5 絵画は種類ごとに展示し、見る順番は2コース

○物語の流れコース（小説家による物語の流れで進む）

風俗画→歴史画→風景画→静物画→肖像画

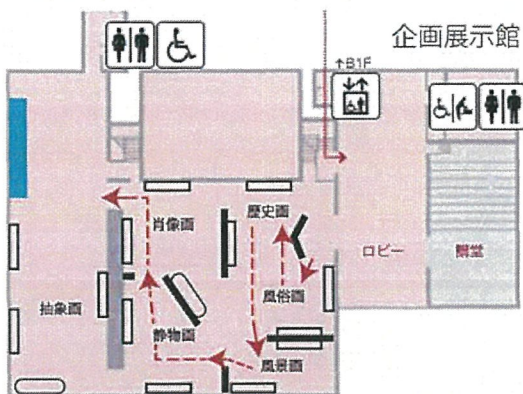
○18～19世紀に価値が高いと評価されていた順のコース（高い→低い）

歴史画→肖像画→風俗画→風景画→静物画

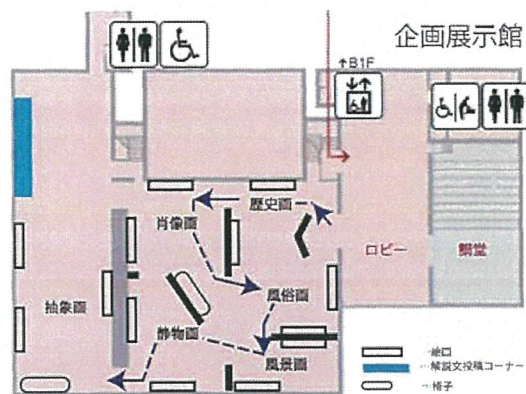
この展示は解説文が多いため、人の流れが詰まってしまう可能性が高い。そこで、コースを2つに分けて考えた。そうすることで人の混雑を防止し、その先の抽象画のコーナーで合流できるようになっている。「抽象画の解釈は難しい」という意見があったため、他の絵画を見た後の方が良いと考えた。抽象画は他の絵画とは種類分けが異なるが、現代に近い展示内容を最後にすることで、幅広く絵画に興味を持ってもらえるようにした。

〈館内イメージ図〉

○物語の流れコース ←



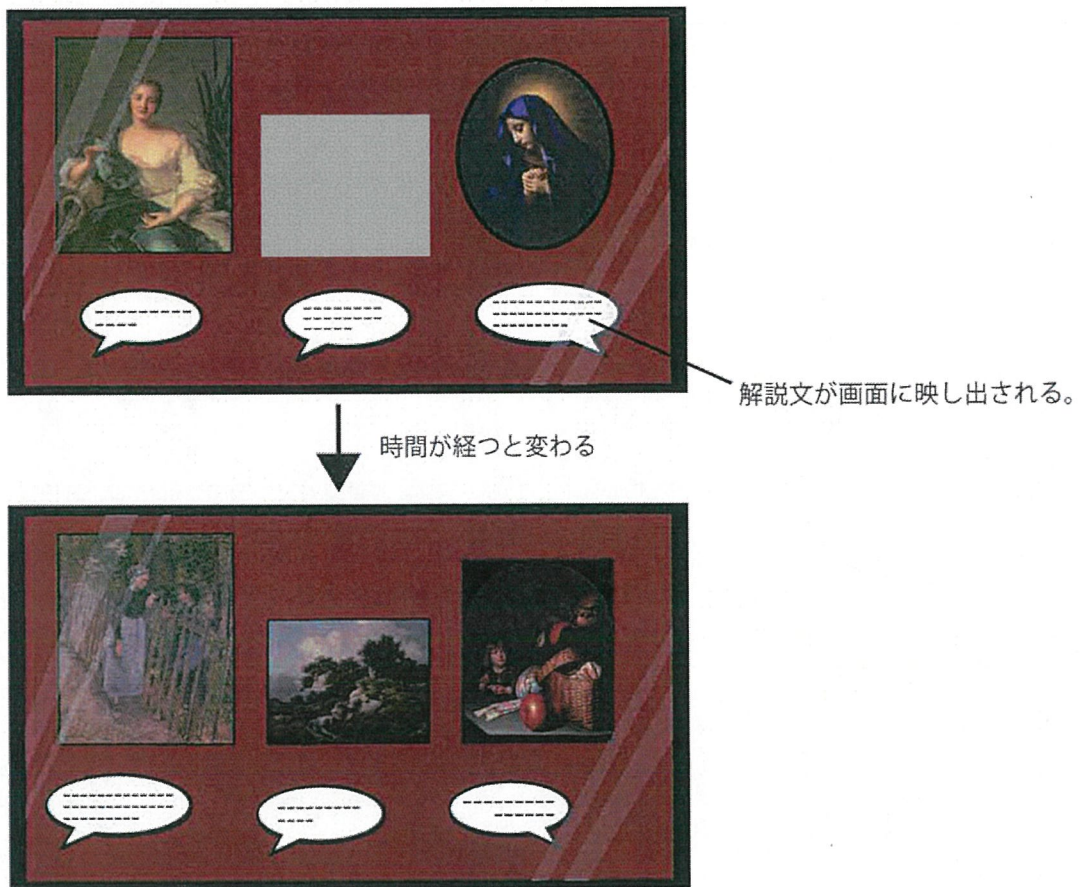
○価値が高いと評価されていた順のコース ←



6 解説文投稿コーナー

鑑賞者自身で考えた絵画の解説や物語を投稿できるコーナーである。また、他の人が考えた解説文も読むことができる。QRコードを読み込み、文章を送ると画面に自分が考えた内容が映る。絵画は、今回展示されたものの中から選ぶことができる。

〈イメージ図〉



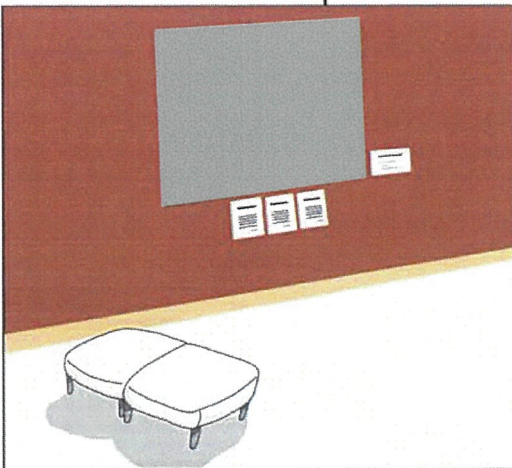
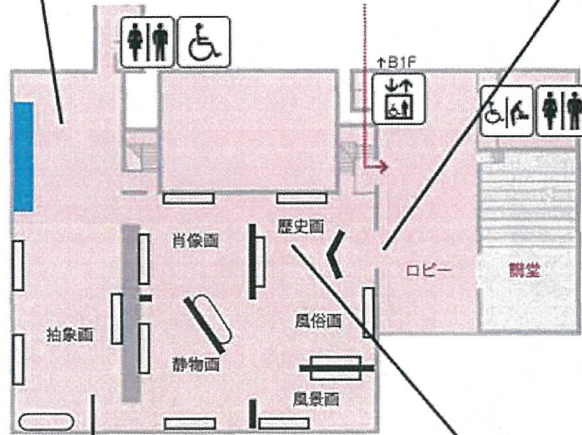
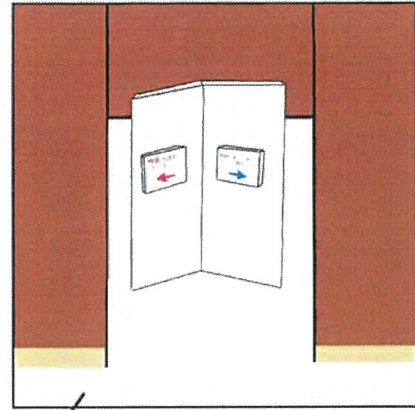
あなたの考えた解説文コーナー

自分で考えた絵画の解説や物語を投稿できるコーナーです。
また、他の方が考えたものも読むことができます。



QRコードを読み込んで、
参加できます。

〈展示の様子〉



〈作品例〉

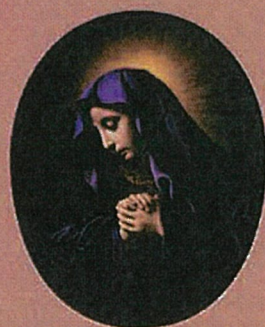
資料③

※資料は内容の文章に含まない。

歴史画

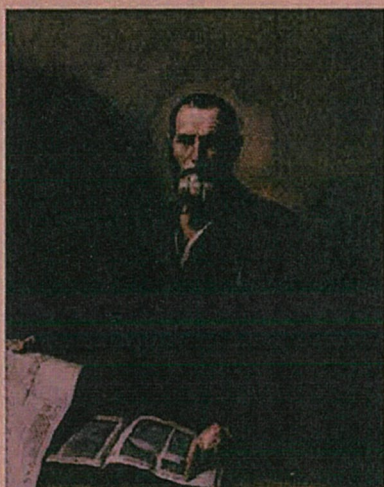


マールテン・ド・フォス
《最後の晩餐》(146×212.5 cm)



カルロ・ドルチ
《悲しみの聖母》
(82.5×67 cm)

肖像画

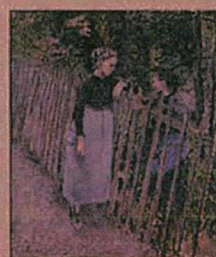


フセーペ・デ・リベーラ
《哲学者クラテース》(124×98.5 cm)



ジャン=マルク・ナティエ
《マリー=アンリエット=ベル
トレ・ド・ブルヌフ夫人の肖像》
(101.8×82.8 cm)

風俗画



カミーユ・ピサロ
《立ち話》
(65.3×54 cm)



ビエール・ボナール
《坐る娘と兎》
(96.5×43 cm)

風景画



ジョセフ・ヴェルネ
《夏の夕べ、イタリア風景》
(89×133 cm)



ヤーコブ・ファン・ロ
イスダール
《砂丘と小さな滝のある
風景》
(27.5×35.8 cm)

静物画

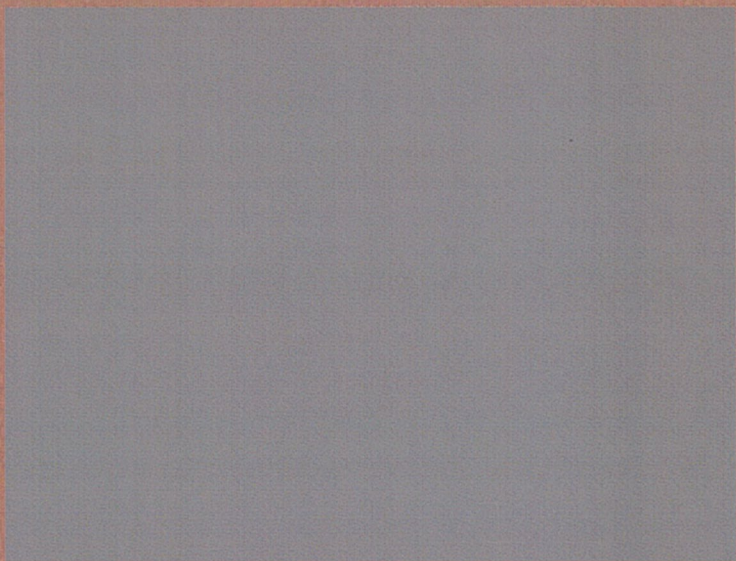


コルネリス・ド・ヘーム
《果物籠のある静物》
(44.5×72.5 cm)



ヘーラルト・ダウ
《シャボン玉を吹く少年と静物》(48×39.7 cm)

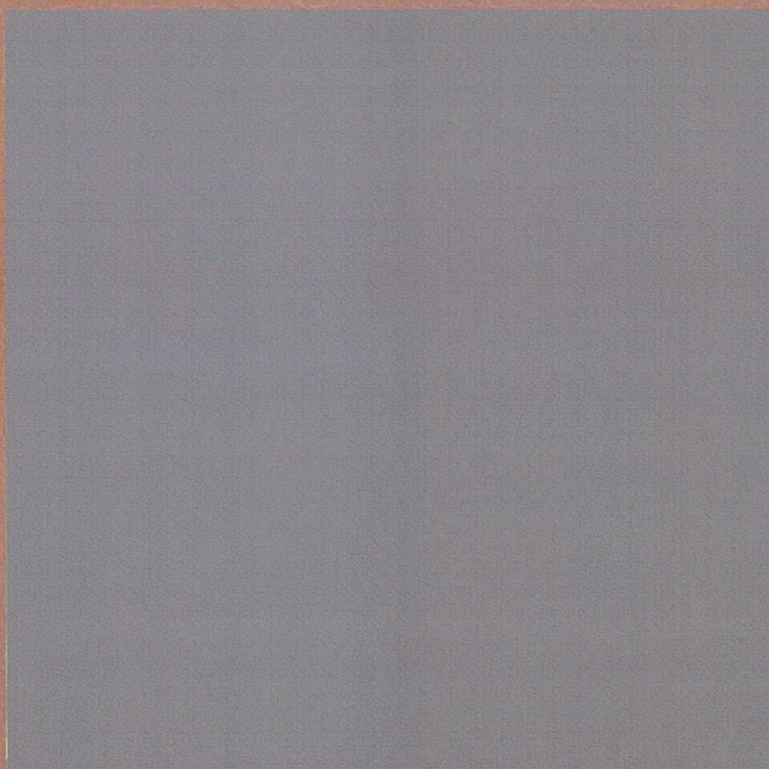
抽象画



ジャクソン・ポロック
《ナンバー 8、1951、黒い流れ》
(151×185 cm)

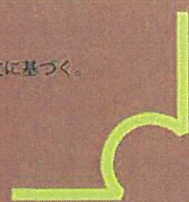


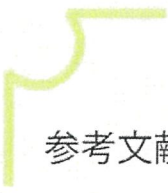
マックス・エルンスト
《石化した森》
(81×99.6 cm)



ジョアン・ミロ
《絵画》
(200×200.7 cm)

※ジャンル分けは国立西洋美術館ホームページの解説文に基づく。
比率は実際のものになっている。





参考文献

- ・アメリカ・アレナス 『なぜ、これがアートなの?』 福のり子 訳 淡交社 1998年
- ・木村泰司 『時代を語る名画たち』 ぴあ 2019年
- ・田中久美子 『#名画で学ぶ主婦業』 宝島社 2018年
- ・平芳幸浩 『マルセル・デュシャンとは何か』 河出書房新社 2018年
- ・国立西洋美術館ホームページ (<https://www.nmwa.go.jp/jp/index.html> 最終アクセス:2021年10月24日)
- ・現代美術用語辞典 ver2.0 アートスケープ (<https://artscape.jp/artword/index.php/> 対話型鑑賞 最終アクセス:2021年10月25日)
- ・NHK ホームページ「びじゅチューン」 (<https://www.nhk.jp/p/bijutune/ts/MPPMVRL98N/> 最終アクセス:2021年8月30日)